

NPO法人神奈川県消費者の会連絡会 代表理事 今井澄江様祝辞

お客様との顔の見える関係を深め、“LPガス健在なり”と発信を

協会のお客様相談所にくる相談内容の多くは切り替えに関するものです。そして、業界大手が、自社ではなく代行させてお客様を勧誘しているケースで、特に目立っています。

この代行方式は消費者から見たとき、望ましくありません。特にガスは、継続して供給するものなので、契約はお客様と会社担当者とは直接話し合っ決めて決めることが大事であるからです。代行はその場限りであり、その後は話が通じないということでは困るのです。その会社は、代行方式は法には触れていないというかもしれませんが、倫理的に駄目なら避けるべきなのです。

いま消費者庁が消費者団体や消費者に向けて言っているのは、“エシカル消費者”ということです。エシカルとは倫理的という意味。折しも東京都知事をめぐって出費問題が出ていますが、仮に法的にきちっと処理されていても、聞いている都民は倫理的に許せないと思っているはず。どこの世界でも、倫理に適った行動をとらないといけません。私どもは、そこをしっかりと押さえていきたいと思っています。

もちろん私ども消費者も、単に価格面だけでなく、保安やサービス面もきちんと考慮したうえで契約をしないといけません。これは私たち消費者団体が、会員あるいは消費者に向かって、今後ともきちんと伝えていかないといけないことだと思っています。

一方、今年4月から電力の自由化が始まり、来年の4月からはガスの自由化も始まります。電力をめぐっては年明けから獲得競争がどんどん始まっており、その中で出ているのがセット料金やトリプル料金です。セットはガスと電気、トリプルなら電気、ガスと通信でしょうか。私はこれがよろしくないと思っています。

なぜかと言うと、本来の電気、ガス料金がいくらだったのか、わからなくなってしまうからです。消費者の立場から見ると、今月は電気代がいくらで、ガス代、水道代がいくらだったか。光熱費はそれで総額いくらになったのか。先月、去年と比べてどう節約できたか。それがわかるようにすべきなのです。

電気の自由化ではまた、“安くなりますよ”と宣伝していますが、これは40アンペアでひと月2万5,000円以上も使っている人たちのこと。それ以下の30アンペア、20アンペアで生活している人たち、特に高齢者、一人暮らし世帯では、メリットはないのです。

だから、そういった人たちや世帯に対してまで、“なんでもいいから、切り替えさせよう”というやり方は駄目です。ここについても、事業者は倫理的な面をきちんと押さえて営業してほしいと思います。

地域の中にＬＰガスの拠点がいくつかあれば、例えば首都直下型地震が起きたときでも、私ども消費者には安心感があります。ＬＰガスは災害に強いからです。神奈川とか東京では現に電力小売会社を自由に選べますが、停電とかを考えると、ＬＰガスには絶対に残ってもらわないといけないと思っています。

ＬＰガスをお届けすることで、お客様と顔の見える関係を深め、それを大切にしていくなご商売を続けていただくことで、今後とも“神奈川でも、ＬＰガス健在なり”と発信できるよう願っております。